ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.1	調査位置				北　緯	36 ° 19 ' 17.8000 "
発 注 機 関	栃木県佐野土木事務所　河川砂防部			調査期間	2008-12-04 ～ 2008-12-06	東　経	139 ° 36 ' 50.4000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	23.54 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機	ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	14.32 m								エンジン	ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1					盛土(礫混じり粘土)(BS)	暗褐		中位	堤体盛土で主に礫混じり粘土でなる 0.5～1.4m間は礫混じり粘土 1.4～3.0m間は礫混じりシルトが主体 2.0m以深は含水量が多くなり粘性が大きい 礫はφ2～20mmの円礫が主体で所どころにφ50mmを点在 3.0m以深は褐色の礫混じり粘土が主体 含水量が多く粘性大きく軟らかい 4.0m付近にビニール片が混じる		12/04 4.75
5	18.44	5.10	5.10		シルト(M)	青灰		非常に軟らかい	含水量がやや多く粘性が大きい		
6	17.44	1.00	6.10								
	16.94	0.50	6.60		砂混じりシルト(M-S)	青灰			含水量が中位で粘性は小さい 細砂が多く混じる		
7	16.34	0.60	7.20		腐植土(Pt)	黒			ピート木片など腐植物多量		
	15.84	0.50	7.70		砂混じりシルト(M-S)	青灰		軟らかい	細砂分を多く混じる 7.4～7.7m間褐色		
8	15.04	0.80	8.50		シルト混じり細砂(FS-M)	青灰	緩い		粒径不均一な細砂		
9	14.04	1.00	9.50		礫混じり粗砂(CS-G)	暗灰	緩い	軟らかい	粒径不均一な粗砂 礫径はφ2～10mm程度に角礫が主体		
10	12.04	2.00	11.50		粘土質砂礫(GSC)	青灰	中ぐらい	中位	φ20～40mmの亜円礫が主体である 礫間は粗砂・粘土により充填されている ルーズな堆積状態を呈し崩壊し易い 礫はチャート，頁岩でなる 11.2～11.5m間は粘土分が非常に多い		
12	9.22	2.82	14.32		粘土混じり砂礫(GS-C)	青灰	非常に密な		φ20～40mmの亜円礫が主体で角礫が混じる 礫間は粗砂・粘土により充填されている 礫はチャート頁岩が主体である 12.3～12.6m間は褐色を呈す 非常に締まった堆積状態である		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	3	9／30	9
1.45					
2.15	1	1	2	4／30	4
2.45					
3.15	1	1	1	3／30	3
3.45					
4.15	1／30			1／30	1
4.45					
5.15	1	1	1	3／30	3
5.45					
6.15	1	1	1	3／30	3
6.45					
7.15	3	3	3	9／30	9
7.45					
8.15	2	2	3	7／30	7
8.45					
9.15	1	3	5	9／30	9
9.45					
10.15	14	9	6	29／30	29
10.45					
11.15	8	6	8	22／30	22
11.45					
12.15	50／5			50／5	>50
12.20					
13.15	50／7			50／7	>50
13.22					
14.15	16	34／7		50／17	>50
14.32					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
		3.70	1			
		4.50				
		5.20	2			
		6.00				
						12/04
						12/05